

安満ムラ全景

② 安満ムラ全景 (紀元前5世紀頃) The panorama of the Ama-community in 5th century BC



5. 環濠集落 (安満ムラ)

- 1) 遺跡の中心部にある住居と倉を取り囲む環濠を備えたムラのことを環濠集落と呼びます。
- 2) 居住域では、柱を立てた跡 (柱穴) が足の踏み場もないほど見つかり、何世代にもわたって幾度も住居を建て替えた様です。
- 3) 環濠は、人口が増えると、掘りなおされ、居住域を広げて行きました。

居住域

- 1) 弥生の人々が日々の暮らしを営んでいた場所です。
- 2) 移住域には、居住のための建物ではなく、集落の作業場であったと考えられる建物もあります。
- 3) 安満遺跡公園では、住居や倉を囲んでいた環濠 (周囲にめぐらされた堀) に白い石を敷き人工芝の土手を巡らせて表現しています。

環濠

右の写真は、池上曾根遺跡の環濠遺跡です。

幅が 1.5m、深さが 1 m 程度

環濠の周辺には人々の住まいが密集しており、用途によって区切られた集落の姿が明らかになっている。

環濠を埋めていた土中からは、おびただしい量の土器破片が出土した。このことからゴミ捨て場としても使用され、それを覆って新たに環濠を掘り直したとも考えられる。

安満遺跡の環濠も、移住域の中の説明板で説明しています。

環濠を順次外へ広げて行ったことがわかります。

